

What?

Why?



所長 山本の

ワイズリレーインタビュー

第6回 サラダファームの取締役 田村さんに聞きました!

1次産業×6次産業の新たな価値を自社で創造するパイオニア

Q 業務内容を教えてください。

田村 農業生産法人ですので、「食と癒しの空間」という大きなテーマの中で、生産・加工・販売を網羅する事業を展開しています。生産部門は、トマトとイチゴの施設園芸をはじめ、トウモロコシやサツマイモなどの露地栽培も行っています。加工部門は自社の野菜や果物を使って、お惣菜やお弁当、スイーツなどを作っています。販売部門では、直売店「サラダハウス」をはじめ、ななっくとフェザンに出店している「Salad Farm DELI」、アネックスカワトク内の「tomte (トムテ)」でお客様に対面販売をしています。

Q 本社併設の施設は、観光地としても人気ですね。

田村 岩手山に近いロケーションを生かして、本社と農園のそばに一般の方が楽しめる癒しの空間を整備しています。アルパカやウサギなど動物との触れ合い場、無料で開放しているドッグラン、イチゴの摘み取りができる「いちごの森」、お花と園芸用品を扱う「ガーデンマルシェ」、季節ごとにお花が楽しめるテーマガーデン「八幡平フラワーランド」、イタリアンレストラン「花の森」、イベントの企画・運営もしています。

Q 本当にたくさんの事業を展開していますね。田村さんのお仕事は。

田村 入社して8年ですが、経営の勉強も少しずつしています。仙台の中小企業大学校で研修を受けたり、キリングループの「キリン絆プロジェクト」で経営を学んだりしてきました。来年で法人化10年を迎えるので、柱をしっかりと太くして経営していく必要があると考えています。会社の可能性が大きいことから、今は小出しに展開している状態なので、10年の節目で事業や経費などを整理しながら経営していきたいです。

Q 取締役になられたのはいつですか。

田村 2年前です。父に会社を背負っていく意志は自分なりに表していたので、それを見ていただいて、今の役職に就かせていただきました。

Q 自社のセールスポイントは。

田村 商品企画から、食材の生産、加工、デザイン、販売、発信を全て自社でまかなえることです。専門知識と技術を持つ

若干30歳ながら、何事にもチャレンジして、自ら可能性を切り拓いている田村さん。今回はオランダから帰国直後のインタビューになりました。



たプロフェッショナルがそろっていることも強みです。「サラダファームには、こんなものがあつたらいい」などとアイデアを自分で考えて提案のできる社員に恵まれているので、心強いですね。

Q 会社のモットーは。

田村 農業のパイオニアでいることです。農業生産法人の頂点にいる意識で、常にチャレンジしていきたいです。経営陣だけでなく、スタッフにも挑戦する姿勢が染み付きつつあります。

Q 今チャレンジしていることは。

田村 一つは、昨年からの旧八幡平市市役所（西根総合支所）前の駐車場を活用して、300席規模の大ビアガーデン「グルメ&ビアフェスタ」を開催しています。地域で減っている夏祭りを復活させたいと思い、地域貢献のために始めたお祭りです。レストラン「花の森」の料理長と弊社専属のパティシエが料理とスイーツを準備して、盆踊りや抽選会も開きました。今年7月28、29日の2日間で、地元の方にたくさんご来場いただきました。二つ目は、インターネットでの通信販売です。全国からお取り寄せできるためのツールとして立ち上げました。三つ目は、日持ちするお土産の開発です。今年改善したことは、イチゴ狩りの予約の取りにくさを解消するために、ハウスを一棟増やしました。



株式会社 サラダファーム
取締役

田村 恵 (たむら・めぐみ)

8年前に入社後、トマトやイチゴの生産を担当。透明感ある声と物腰柔らかな雰囲気をもとつつも、取締役としての顔を持つ。カナダでの語学留学で培った国際感覚で海外からの観光客を積極的に受け入れている。9月に誕生日を迎える昭和61年生まれ。



田村さんをはじめ、サラダファームで働く皆さんはとにかく笑顔が最高でした。



肉の横沢 代表取締役 横澤 盛毅 さんからのご紹介

Q 学生時代に打ち込んだことは。

田村 バレーボールを小学5年生から大学卒業までやっていました。高校は盛岡二高でしたが、いいメンバーに恵まれてインターハイに出場できました。最高に楽しかったですね。バレーを続けてきたおかげで、我慢強さがあると思います。

Q 我慢強さは仕事で生きていますか。

田村 例えば社内でもミスがあった時、焦ることを我慢できることだと思います。仲間がミスをした時、冷静に判断して、フォローできる環境を整えています。

Q 会社としての目標は。

田村 3年後には新たな施設をつくる予定です。直近だとフラワーランドのリニューアルを考えています。体験して遊べる場所を増やして、東北各地からお客様が集まる場所にしていきたいです。

Q 個人としての目標は。

田村 私なりに裏テーマがありまして、それは女性が働ける環境をじわじわと整えていくことです。そのためにはマネジメントや福利厚生、託児所整備などの勉強をしています。人口が少なくなり、どこの自治体も女性の確保が課題だと思うので、会社としても女性が八幡平に住みながら働きやすい職場を目指していきたいです。

Q 仕事をする上で大切にしていることはありますか。

田村 挨拶と笑顔です。特に笑顔がいい会社なので、私自身も意識しています。私がしかめっ面をしていてもだめなので。

Q 自分なりの情報収集は。

田村 同業の仲間、異業種の若手の事業主、先輩方のお話です。社長の田村昌則が一番の師匠です。

Q 社長が創業した経緯は。

田村 もともと「株式会社岩手ファーム」さんに入社後、養鶏を担当していて、やがて加工卵の味付きゆでたまごの開発に携わりました。その後独立して、平成13年に地元の八幡平で

「株式会社岩手エッグデリカ」を設立しました。平成17年より農業部門「サラダファーム事業部」が始動し、平成20年に「農業生産法人 株式会社サラダファーム」として分社化しました。社長はもともと農業学校出身で、専門の養鶏で培った衛生技術がサラダファームにも応用されています。

Q 名前の由来は。

田村 社長が決めましたが、シンプルで分かりやすさを求めた結果だと思います。最初はサラダを売っている場所だと勘違いされることが多くて、「まずは名前を覚えてもらおう」と、平成23年くらいから計画的にメディアの露出をしてきました。その結果、皆さんに定着し、年間のべ5、6万人の方がいらっしゃるようになりました。

Q この仕事の魅力は。

田村 たくさんありますが、いろんな人やこと、ものに触れられることです。例えば、自分が育てた食材が美味しい料理やスイーツに生まれ変わる感動を間近で味わえることもその一つ。1次産業と6次産業に携わるサラダファームならではの醍醐味です。あとは直販型を大切にしているので、お客様の「おいしいね」という声や笑顔が直接見られることですね。個人的には野菜に触っている時が楽しいです。たまたに、加工部門のお弁当の手伝いをしているときも、自分自身が楽しいと思えることがお客さんにとっての「楽しい」につながっていくと考えています。

Q 最後に好きなタイプの芸能人は。

田村 背が高い人が好きですが、強いて言うなら映画「ホリデイ」に出演したイギリス出身のジュード・ロウさんです。日本の方なら、岩手出身のNHKアナウンサー・阿部涉さんを尊敬しています。震災の時のアナウンスがとても心に残っています。

◎ 本日はお忙しいところありがとうございます。